

## 学生自主企画サマーセミナーの変遷

### A change of the summer seminar as the student independence project

○緒方 英彦\*  
OGATA Hidehiko\*

#### 1. はじめに

サマーセミナーは、農業農村工学会（旧農業土木学会）に所属する学生会員の自主企画として1996年からほぼ毎年のように開催され、2007年までに10回開催されてきた。各回では、企画代表者を中心とする企画グループが組織され、企画グループの考えや思いが込められたテーマについて学生が意見交換し理解を深めるだけでなく、全国から参集する学生が時間を共有することで同世代の仲間をつくる機会になっている。開催数が10回に達したことを一つのきっかけとして、過去のサマーセミナーを振り返り、それぞれの世代がサマーセミナーに求めたもの、サマーセミナーから得たものを整理し、その情報を次世代に提供するとともに、サマーセミナーが学生に提供できる役割を改めて考える場として本企画セッション「学生自主企画サマーセミナーの変遷」が企画された。本文では、サマーセミナーの変遷を概観するための資料として、過去10回のサマーセミナーの内容を紹介する。ここで、表中の所属は、開催当時の所属である。

開催年 (回)	1997 (第2回)
開催期間	7.31-8.2
会場	日本大学生物資源科学部附属演習林 水上実習所
企画代表者	重松智範 (日本大)
参加人数 (大学数)	25名 (8大学)
オブザーバー人数	4名
テーマ	地域資源の活かし方
内容	○学生発表-1「大学院生について」岩田敏晴 (日本大学大学院), ○講師福徳提供-1「環境破壊と行政破壊」河宮信朗 (中京大学), ○学生発表-2「若手・学生の交流と向上を目指して」楠八重春華 (東北大学大学院), ○講師福徳提供-2「地域資源としての農業土木生態系の再生」小林裕志 (北里大学), ○学生発表-3「棚田の問題から農業土木の課題を考える」大西健夫 (京都大学大学院) ○学生発表-4 「私の見た日本」竹下伸一 (愛媛大学学部生) ○総合討論会と KJ 法によるまとめ

開催年 (回)	1996 (第1回)
開催期間	7.22-7.24
会場	宇都宮大学附属日光 (戦場ヶ原) 演習林
企画代表者	松井宏之 (宇都宮大)
参加人数 (大学数)	24名 (9大学)
オブザーバー人数	3名
テーマ	実務と研究のはざままで
内容	○開催地の紹介「戦場ヶ原について」鈴木研二 (宇都宮大学大学院), ○討論会「実務と研究のはざままで」を題材として, ○ゼミ I 「農業土木分野におけるインターネット利用の課題と展望」溝口勝 (三重大学), ○ゼミ II 「中堅に向けての意気込みと戸惑いー21世紀に向けて農業土木のアイデンティティを考えるー」大槻恭一 (鳥取大学), ○オブショナルツアー

開催年 (回)	1998 (第3回)
開催期間	7.24-7.26
会場	鳥取サイクリングターミナル砂丘の家
企画代表者	大西健夫 (京都大)
参加人数 (大学数)	27名 (10大学)
オブザーバー人数	4名
テーマ	農業土木と開発 ー人と自然との新しい関係を探求めてー
内容	○講演「砂丘の形成と課題」赤木三郎 (放送大学), ○学生発表「新潟平野と潟ー鳥屋野潟をとりまく環境ー」越山直子 (新潟大学大学院), ○講演「農業が守った生物多様性」守山 弘 (農業環境技術研究所), ○学生発表「豊かさ と発展の価値観を問う」鈴木研二 (東京農工大学大学院), ○意見発表, ○討論, ○まとめ

\*鳥取大学農学部, Faculty of Agriculture, Tottori University, 学生会員, 学生自主企画, サマーセミナー, 変遷

開催年(回)	1999(第4回)
開催期間	8.5-8.7
会場	POMPADOUR 油壺研修センター
企画代表者	飯山一平(東京大)
参加人数(大学数)	34名(11大学)
オブザーバー人数	3名
テーマ	農業土木について考える
内容	「農業土木について考える」という大きなテーマを、〇これまでの農業土木の長所および短所について、〇自分たちができること、したいことについて、の二段階に分けて討論、参加者を三つのグループに分けて、それぞれのグループで討論を行い意見をまとめ、その結果得られた意見をもとに全体討論を行う。

開催年(回)	2000(第5回)
開催期間	8.4-8.6
会場	鳥取大学乾燥地研究センター・鳥取サイクリングターミナル砂丘の家
企画代表者	大東信仁(鳥取大)
参加人数(大学数)	40名(12大学)
オブザーバー人数	6名
テーマ	これからの農業土木-20世紀に置いていくもの21世紀にもっていくもの-
内容	メインテーマである「これからの農業土木」のもとに、3つのサブテーマをディベートにより討論した。①就職に役立つ授業は少ない、②フィールドサイエンスは少ない、③農業土木という名称は少ない、参加者は3グループに分かれて、ディベートの肯定側、否定側、判定という3つの全ての立場を交代して担当した。

開催年(回)	2001(第6回)
開催期間	7.27-7.29
会場	岩手大学農学部
企画代表者	坂田賢(京大)
参加人数(大学数)	23名(10大学)
オブザーバー人数	1名
テーマ	農業土木について
内容	自分の研究における農業土木の位置づけについて、グループディスカッションおよび全体討論を行った。議題は全て同じで、専門分野や学年などの属性に分けて討論を行い、それらの議論を踏まえて全体討論を行った。

開催年(回)	2002(第7回)
開催期間	8.8-8.10
会場	名古屋市総合体育館宿泊研修棟
企画代表者	櫻井芳実(北里大)
参加人数(大学数)	14名(9大学)
オブザーバー人数	1名
テーマ	愛知用水の歴史と現状
内容	〇愛知土地改良区にて講演「愛知用水建設当時の話」濱島辰雄、「改良区の組織と役割」土地改良区職員、〇愛知池の見学、〇諸和第一開水路、二連開水路(玉石張り水路)見学、〇尾張東部浄水場の見学、〇グループディスカッション、〇全体ディスカッション

開催年(回)	2004(第8回)
開催期間	9.9-9.11
会場	東川町キトウシ森林公園家族行村
企画代表者	小木田有紀子(北海道大)
参加人数(大学数)	12名(5大学)
オブザーバー人数	1名
テーマ	農業土木の観点から北海道農業現状を知り、課題を探る。
内容	〇資料館見学:美瑛町郷土資料館、土の館、拓真館、〇収穫体験:沢尻農園、〇現地の方との交流

開催年(回)	2006(第9回)
開催期間	8.10-8.12
会場	日光林間学園しながわ光林荘
企画代表者	戸田修、乃田啓吾(東京大)
参加人数(大学数)	19名(6大学)
オブザーバー人数	4名
テーマ	水土里の樹が花拓く場所ー立ち枯れを防ぐー
内容	〇セッション①「農業土木の歴史的背景」、「学生アンケート調査結果」企画部によるプレゼン、質疑・応答、〇セッション②「農業土木分野の現状」宗村広昭(島根大学生物資源科学部)、宮崎新(日技クラウン株式会社)、濱井和博(関東農政局)、〇セッション③「パネルディスカッション」テーマ「農業土木の“今”と“これから”」、〇セッション④「吠えよ若人!ーパネラーへの質疑ー」

開催年(回)	2007(第10回)
開催期間	8.30-9.1
会場	中国四国地区国立大学大山共同研修所
企画代表者	櫻井芳実(東京大)
参加人数(大学数)	14名(3大学)
オブザーバー人数	4名
テーマ	安定と自由とー農業土木の今とこれからー
内容	〇「KJ法の説明」服部俊宏(北里大)、〇ワークショップ①「農村開発シミュレーション」、4グループが選択した各phaseにもとづき「その農村はどのように発展していけばよいのか?」をKJ法でまとめる。〇講演会「これからの環境に配慮した、農業農村整備事業とは」坂根勇(鳥取県耕地課長)、〇ワークショップ②「農村開発シミュレーション」の続き、〇グループで意見をまとめて発表